ODD GALLERY
～自然と人工物によってつくる新たな環境～

■Layout drouwing

ID:74

■Back ground

霧の町　三次

・日本には眺望の良い山の上に展望台がある事例が多く存在する。
3本の川が市内中心部で合流する地形が特徴的である三次市は標高約490mの高谷山に、三次市の風物詩である霧の海を見ることのできる展望台がある。9月から3月にかけての天気の良い朝には霧の海を見ることができ霧が発生していなくても三次市内中心部を眺めることができる展望台となっている。

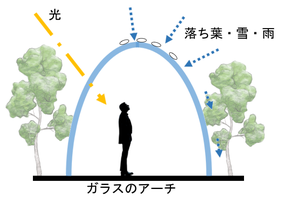
人通りの少ない山道空間

・山道の特徴として、道に倒れかかる木々や落ち葉など整備されておらず、人や車もあまり通らない。また、山道には両側に木が生い茂っている場所や、木や草が低く開けており山道を歩きながらでも景色を眺めることのできる場所もある。現在の展望台は木造の2階建てで北東から南側にかけて霧の海や三次市の風景を眺めることができるようになっている。

■Concept

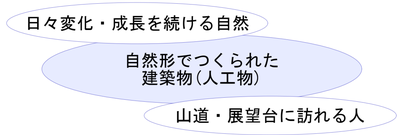
体験型展望台

・森の木々を伐採してつくられた山道に、本来あるはずだった木々を建築物によって表現する。
その建築物を山道空間に緩衝するための工作物と捉え、山道全体を周辺の木々や周辺の環境を体験するためのギャラリーとして計画し、時間的変化によって変わる自然と建築物との関わりを歩くことによって体験し、人工物によってつくりだされる新たな環境を創出する。



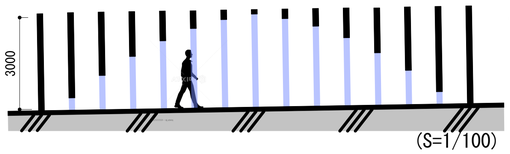
自然と人工物の融合

・自然環境と建築とのつながりを表現し体験できる展望台と山道にするため、枝や木、既存の等高線のような自然形を取り入れる。人工物である建築を自然の形をもとに設計することで、手つかずの自然と人が手掛けた造形（建築）により、自然とのつながりを表現する。建築（人工物）が介在することによって人と自然を繋ぎ合わせる役割を持たせる。



■Diagram

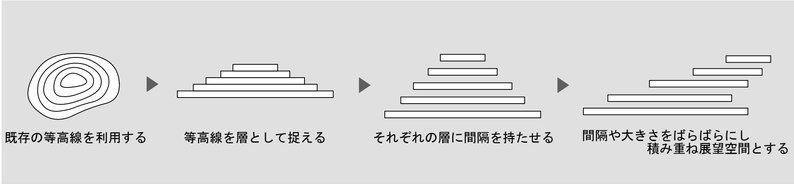
自然の形を造形に利用する



・アーチには枝や木の形を取り入れ素材、形、密度を変化させることで周辺の環境や天候との関わりを持たせる。

・建築（アーチ）が山道空間を切り取り、額縁の役割を担う。

既存の等高線から形をつくる



等高線の基本形は残しつつ形や配置、向き、間隔を変化させる

▼

手つかずの自然と人が手がけた造形がひとつのギャラリーとなる

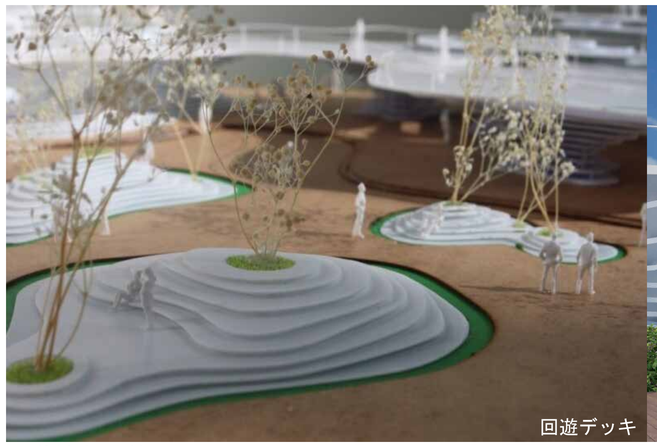
時間帯、天候によって山道にも違う味わい方ができるようになり
山道を訪れる人の疲労感を和らげられるような楽しみを与える

■Perspective

飛び出す展望空間

◇霧の海を見ることができる地域的特性を活用し、斜面に対して飛び出すように配置し、景色を眺められるよう積層させる。

◇ガラスで構成された層をランダムに配置することで、どの位置からでも景色を楽しむことができるようにするのではなく、景色を見ることのできる場所を自分で探したり、景色を眺めるための順路をあえて作ることにより、緊張感や期待感を促す空間を提供する。



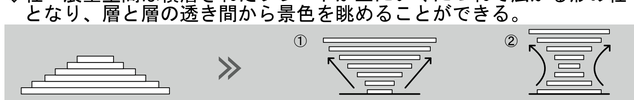
回遊性と段差

◇デッキは展望空間に回遊性を持たせ、積層させた層が既存の木を切り倒すことなく囲むことで、プランターとしての役割を担う。

◇積み重なった層は座面となり、段差をつくることで歩く人の目線の高さに変化を与え、様々な角度から景色、人や自然と触れ合えることのできるスペースを提供する。

透き間から眺める

◇柱・展望空間は積層されたプレートが上にいくにつれて広がる形の柱となり、層と層の透き間から景色を眺めることができる。



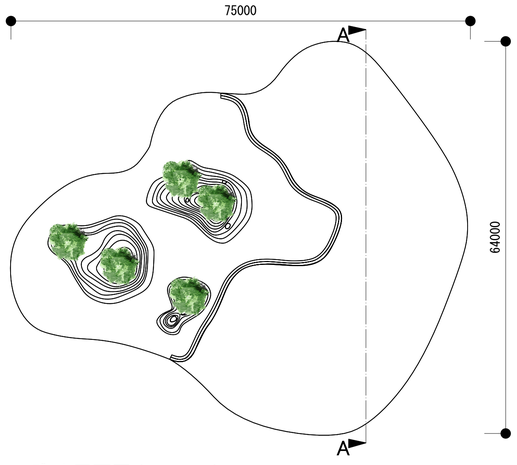
積層の内部空間

◇内部空間はガラスで囲まれた空間の周りを100㎜のうすい層が250㎜間隔で積み重なる。層の大きさや形の変化によって層が座面や本棚としての役割を担う。

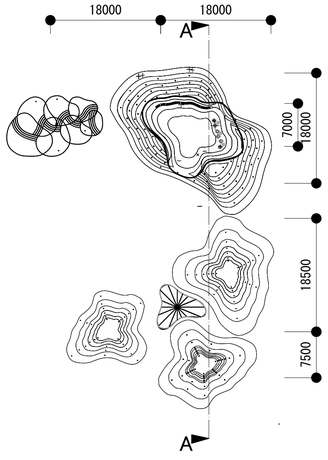
◇ガラスの空間で層をくりぬいたことによって窓ができ、内部からも景色を眺めることのできる空間になっている。

■Elevation

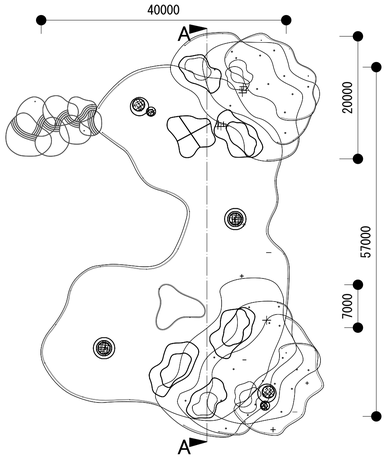
■Plan view

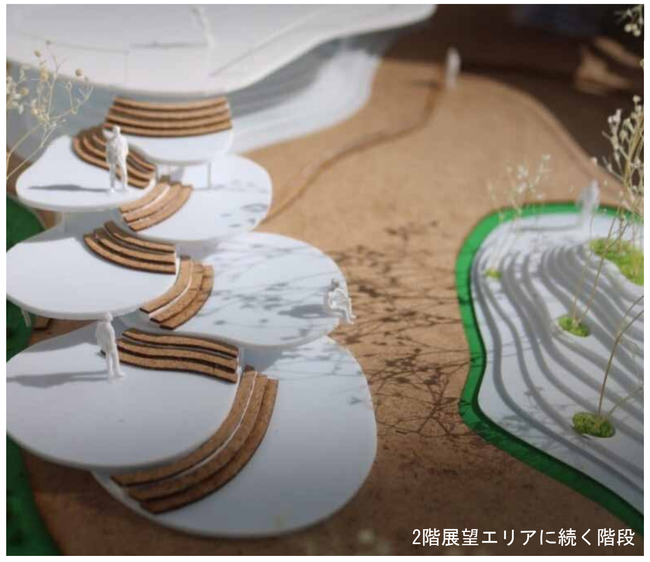


デッキ平面図 (S=1/300)



1F平面図 (S=1/300)



2F平面図 (S=1/300)

■Model photo